

5. 地域医療教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<富山大学>

○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

【連携】（*）

- ・学部生及び大学院生を対象として、日本の平均より15年先行して高齢化を迎えている北信地域において、在宅医療やゲノム医療による個別化したがん治療の演習や実習を実施した。
- ・一部、金沢大学と単位互換制度をとっている。

<岐阜薬科大学>

○ 「地域で活躍する薬剤師」に関する地域実習

- ・学部生を対象として、つぼがわ薬局において地域実習を実施した。

<名古屋市立大学>

○ コミュニティヘルスケア卒前教育プログラム

- ・学部生を対象として、医療系学部（薬学部・医学部・看護学部）連携教育プログラムを実施した。

<岡山大学>

○ 石巻地区被災地医療研修（*）

- ・学部生を対象として、災害時医療及び災害時における地域の医薬品供給体制や医療救護体制を学び薬剤師等の役割を理解することを目的として、石巻赤十字病院において東日本大震災の現状とその対応について確認・体験学習・討議を行った。
- ・震災前と全く光景が変わった被災地の見学により津波の恐ろしさを体感できた。モバイルファーマシーの前身となった移動薬局の結成、医薬品の供給、在庫管理等に

薬剤師が活躍できることや、地域における医療連携体制、多職種間における患者情報の共有について学ぶことができた。

◇ 参加人数：6年次生3名、3年次生1名、1年次生2名

○ 川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流

(*)

- ・学部生を対象として、人体及び疾病について広く深い学習の場の見学により医療人としての自覚を促すと共に本学薬学部学生の備えるべき教養と人間性を涵養することを目的として、川崎医大現代医学教育博物館の見学と、倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施した。
- ・薬学部学生にとって医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となり、また医学薬学の世界と違う形での創造性に富む意欲的な作品に触れ刺激を受けることで、薬学部学生の備えるべき教養と人間性の涵養の機会となった。

◇ 参加人数：学部生8名、教員4名

○ 特別講演会 (*)

- ・学部生を対象として、特別講演会「行政機関における薬剤師及び薬学出身者の役割について学ぶ」を実施し、国や地方行政機関における薬剤師や薬学出身者の役割について学習した。
- ・本講演会では、厚生労働省及び岡山県庁で働く薬剤師の職員の方を招き、国や地方行政機関において薬剤師及び薬学出身者に期待される役割や担当業務について講演を行った。

◇ 参加人数：学生6名、教員1名

○ 国立療養所見学研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、国立療養所見学研修を実施した。治療薬がなかったことで疾患への誤った医療知識が広まり差別を生み出したハンセン病の歴史を知り、医薬品に携わる者としての使命を自覚する機会として、岡山県内にある国立ハンセン病療養所長島愛生園を訪問した。

◇ 参加人数：学部生12名、大学院生1名

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク (TPN)

- ・学部生、大学院生及び薬剤師を対象として、臨床で活躍中の医療関係者（医師・薬剤師・看護師等）を講師として招き、地域薬剤師との身近な勉強会並びに長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回実施した。
- ・地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学部学生にも自主的な参加を呼びかけ、徳島を拠点とした薬剤師・薬学生の交流の場として職能教育に役立つと期待される。また学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性の認識につな

がることが期待される。

・2019年度は1回開始した。

◇ 参加人数：学生63名、薬剤師1名

<熊本大学>

○ 学生団体” Kumamoto Medical Students (KMS)“による研修会

- ・学部生及び大学院生を対象として、自らが開催した地元の地域医療の現状を学ぶ研修会において、地域における次世代の地域医療の担い手として考える機会の創出した。

2) その他（大学としての取組等）

<千葉大学>

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム

- ・平成24年度～28年度文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを継続して実施した。千葉県内3薬科大学が特徴的に有する教育プログラムを相互に受講できるプログラムである。

<金沢大学>

○ 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成：北信がんプロ【連携】

- ・大学院生を対象として、文部科学省の大学間連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」の養成を図った。
- ・我が国におけるがん医療の推進を目的としており、国公立の7大学（金沢大、富山大、福井大、信州大、金沢医大、石川看護大）で県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システムの構築を目指すものである。
- ・薬学系では、大学院生・薬剤師を対象とした教育プログラムを実施した。